

埼玉医科大学腎臓内科

岡田 浩一（教授）
Hirokazu OKADA

<http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/division/17nephrology/>



◆ 沿革 ◆

1995年4月に鈴木洋通先生を初代教授として、旧第2内科腎臓部門を母体に埼玉医科大学腎臓病センター・腎臓内科が発足しました。以来、腎臓内科・透析医療の専門施設として、埼玉県西部全域をカバーする診療を行ってきました。

2007年4月に埼玉医科大学国際医療センターが開院すると、同センターの血液浄化部門も担当することになりました。現在も、常勤の浄化部部长〔渡辺裕輔講師（兼任）〕に加えて、夜間休日にも当直/on call体制を敷き、各科の血液浄化・腎疾患関連のコンサルテーションに即座に対応できる体制を維持しています。

2014年4月からは岡田浩一（教授）が運営責任者となり、地域医療を担う基幹病院として、そして腎臓病学の教育と先端的な基礎・臨床研究をリードする大学施設として、新たな飛躍を目指して、全14名の教室員が一丸となって日夜努力しています（写真1）。

◆ 基礎研究 ◆

初代研究主任である岡田が、基礎研究のための実験設備をゼロから立ち上げ、腎線維化・慢性腎臓病（CKD）の進行機序の解明と治療法の開発

に関する研究を、既に20年以上継続しています。現在は研究主任である井上 勉准教授をリーダーに、大学院生3名、研究助手2名の体制で研究を進めています。我々の研究室の特徴は遺伝子改変マウスの系を多数維持していることで、*in vivo*での現象を最優先に仮説を組み立て、検証しています。

1. CCN2がCKDを進行させる機序の解明

当研究室の黎明期、HGF、TGF- β の拮抗作用を検討するなかで、尿管上皮細胞に発現していることを見出したCCN2（別名CTGF）に注目し、基礎研究を重ねてきました。CKDは組織学的に尿管萎縮と間質線維化に特徴づけられますが、CCN2はTGF- β とともに間質線維化病巣の形成に重要な役割を担っています。CKDの治療は長期に及ぶため、治療の目的でCCN2作用を修飾する場合も、腎線維化に特異的な部位を可能な限り特定する必要があります。現在、特定モジュールを欠損した変異型CCN2のノックインマウスを用いて、CKDモデルにおける間質線維化が抑制される現象を見出し、機序の詳細を明らかにしつつ、特異的なデコイペプチドを合成して治療法への応用を検討中です。